

**オムロン株式会社 2017年度1Q決算
投資家様向け説明会 質疑応答(サマリー)**
(2017年7月27日、東京)

◆ 全社業績・経営・戦略関連

Q: 売上総利益が前年同期比で大幅に増加した理由は？

A: 理由は大きく3つある。①利益率が比較的高い制御機器事業、ヘルスケア事業の売上高が伸びたことによる事業ミックスの向上、②昨年度に実施した一部事業の構造改革の効果、③設備稼働率の高まりによる生産性の向上。

Q: 1Qにおける販管費と研究開発費の費用計画はどの程度で想定していたのか？通期の1/4程度か？

A: 1/4とは想定していない。1Qは2～4Qと比較して少ない金額を計画していた。

Q: 1Qの販管費、研究開発費はほぼ前年並みだが、人財の採用計画は予定通り行っているのか？

A: 計画通り、採用が進んでいる。1Qに採用した人の多くは2Qに入社する予定。今後も計画通りの採用を続けていくことで、期を追うごとに費用は拡大すると見ている。

Q: このタイミングで自己株式取得の枠を設定した背景は？

A: 今後も比較的堅調な業績で推移すると想定しており、将来の成長に向けた投資をしっかりと行ったとしても、キャッシュに余裕が出てくると見ている。余剰キャッシュを有効に使うことによる資本効率の向上、そして株主還元の充実を図るため、今回、自己株式取得の枠を設定した。

Q: 自己株式取得の期間を1年間とした理由は？枠だけ設定し、200億円全てを使い切らないこともあるのか？

A: 基本的には全て使い切るつもりでいる。但し、想定を超える株価の急激な上昇などの特殊要因によっては、使い切らない可能性もある。

◆ 制御機器事業 (IAB) 関連

Q: 1Qで特に好調だった中国でのデジタルを除いた場合、好業績が続くと考えてよいか？

A: 注力業界以外でもグローバルで売上高は二桁以上伸びており、持続性はあると考えている。

Q: IABの中国の売上高が伸びた理由は？

A: スマートフォン、半導体といったデジタル業界や自動車業界が堅調だった。加えて、制御アプリケーション・ソフトを活用したソリューション提案がお客様に評価されていることが大きな理由。

Q: センテック社買収によるPLへの通期の影響額は？

A: 売上高で二桁億円の影響がある。

◆ 本社直轄事業 (その他事業) 関連

Q: 1Qにおける本社直轄事業の売上高の内訳は？

A: 環境が40%、バックライトが35%、電子が20%、マイクロデバイスが5%。

Q: バックライト、マイクロデバイスにおける構造改革の進捗は？

A: バックライトは昨年度に実施した構造改革の効果により、収益は改善している。マイクロデバイスの構造改革はまだ道半ばであり、今後も取り組んでいく。
